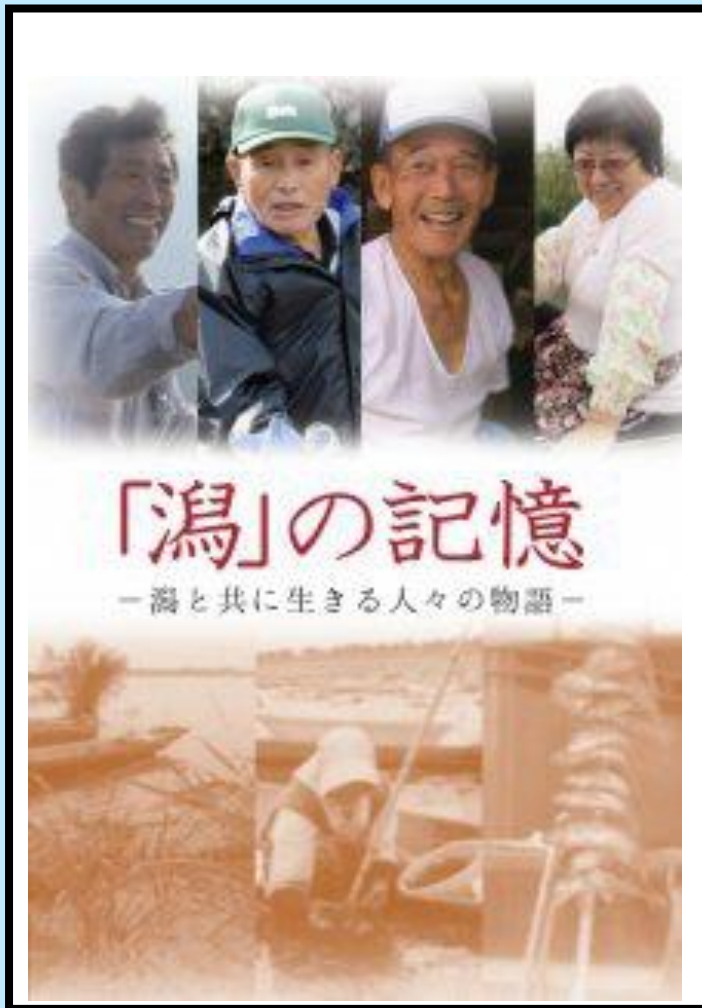


水との闘いと恵み

期日：平成29年**12**月**13**日(水)

時間：13:30~15:10(開場13:00)



プログラム

※作品の詳細は裏面をご覧ください。

1. 芦沼

(製作 山峡視学教研)

昭和30年代に泥田が乾田化されるまでの亀田郷一帯を記録した映像
【1954年 VTR 43分】

2. 「瀧」の記憶 瀧と共に生きる人々の物語

(製作 新潟市瀧環境研究所)

証言をもとに現在から当時を振り返るとともに現在の瀧との関わり方を記録した映像
【2016年 DVD 47分】

昭和30年代に泥田が乾田化されるまでの亀田郷一帯を記録した「芦沼」と、証言をもとに現在から当時を振り返るとともに現在の瀧との関わり方を記録した「『瀧』の記憶—瀧と共に生きる人々の物語—」を上映します。

新潟県立図書館 ホール(1階)

※上映作品は都合により変更になる場合があります。
また開場時間が変更になる場合があります。

お問い合わせは 業務第2課 TEL 025-284-6001

入場無料

定員 186人

先着順(申込不要)



いきいき県民カレッジ登録講座

主催 新潟県立図書館

芦沼

新潟県の米どころ蒲原平野には海面より低い湿田があり、腰まで没する深田は農作業を困難にするばかりか米の収穫もわずかなものでしかなかった。ここに住む農民が田舟を使って農作業をしたり、水田の土の流出を防ぐために田のあぜに芦を植えるなどの努力と工夫を重ねてきた様子を描き、昭和30年代に入って耕地整理事業とともに大きな排水機場ができ、300年にわたって農民を苦しめた泥田が乾田化されるまでを紹介する。

【1954年 VTR 43分 記録映像】

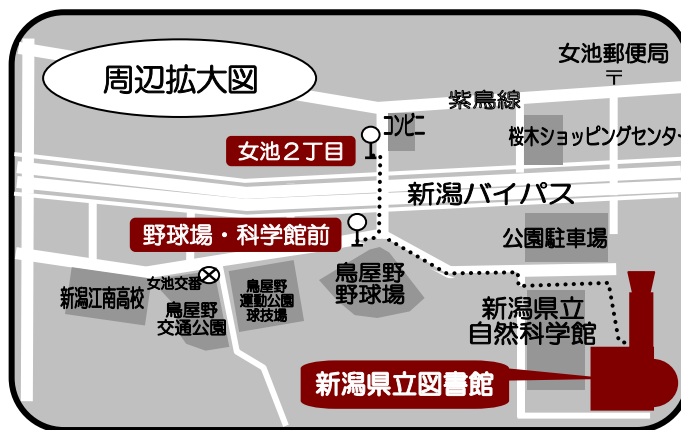
「潟」の記憶 潟と共に生きる人々の物語

昭和30年代以降、水田の乾田化、潟の干拓が進み、新潟市における潟端の暮らしは大きく変わった。潟の動植物を生活の糧とする世代が高齢化し、潟と共に歩んできたその記憶は失われつつある。この「『潟』の記憶－潟と共に生きる人々の物語」は、潟と共に暮らし、生業としてきた人々が、その経験を語る記憶集である。

【2016年 DVD 47分 記録映像】（パッケージより）

新潟県立図書館

- ◆休館日 月曜日（祝日及び振替休日の場合は開館）
蔵書点検・改修工事（12月18日～1月4日）
- ◆開館時間 火曜日～金曜日 午前9時30分から午後7時まで
土曜日・日曜日・祝日 午前9時30分から午後5時まで



交通

JR新潟駅（南口）から

- バス 【女池愛宕】行き、【江南高校経由市民病院】行き又は【江南高校経由潟東営業所】行きに乗車20～25分、【野球場・科学館前】で下車徒歩8分
※ バスは朝夕の通勤時間帯を除き、平日は30分に1本、休日は1時間に1本程度
※ 新潟交通ホームページで、時刻表がご覧になれます。（<http://www.niigata-kotsu.co.jp/>）
- タクシー 新潟駅南口から15分程度です。
※ 駐車場（無料）：公園駐車場をご利用ください。